

平成 18 年 10 月 30 日

各 位

会 社 名 ユニコムグループホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 二 家 英 彰
 (J A S D A Q ・ コード 8 7 4 4)
 問合せ先 常 務 取 締 役 酒 井 清 行
 TEL 0 3 - 5 6 2 3 - 8 7 4 4

平成 19 年 3 月期中間決算速報値（連結・個別）に関するお知らせ

平成19年3月期中間決算（平成18年4月1日～平成18年9月30日）の連結及び個別の業績につきましては、平成18年11月16日予定の正式発表に向け、現在決算集計中であります。しかしながら、当社グループといたしましては、株主をはじめ、投資家の皆様に対して適時・適切な情報開示を積極的に行う一環として、決算集計の過程で取りまとめました連結及び個別の当中間決算の速報値を、下記のとおり開示することといたしました。

なお、当社グループは前期より連結及び個別の業績予想を開示しておりませんので、業績対比は前年同期比で行っております。

記

1. 中間決算速報値

①平成19年3月期中間決算速報値（連結）

（金額の単位：百万円）

	平成 19 年 3 月期 中間決算 速報値 (A)	平成 18 年 3 月期 中間決算 実績 (B)	前年同期比 (A)/(B) (%)
営業収益	7,098	7,274	97.6%
経常利益	328	793	41.4%
中間純利益	△ 104	366	—

②平成19年3月期中間決算速報値（個別）

（金額の単位：百万円）

	平成 19 年 3 月期 中間決算 速報値 (A)	平成 18 年 3 月期 中間決算 実績 (B)	前年同期比 (A)/(B) (%)
営業収益	4,386	5,646	77.7%
経常利益	468	574	81.5%
中間純利益	△ 203	291	—

2. 業績概要（平成18年4月1日～平成18年9月30日）

(1) 連結業績概要

当中間連結会計期間における当社グループの連結業績は、証券手数料においては前年同期比で増収となったものの、商品先物取引業に係る委託手数料や通貨取引関連収益が下記に述べるとおり減収となったため、全体としての営業収益は前年同期実績を若干下回る見通しとなりました。各事業部門別の業績概要は次のとおりです。

（商品先物取引業）

石油市場において下落基調の続いたことから投資人気が低迷したなどの市況要因に加え、当社グループでの商品先物取引において、その営業モデルを時代環境に合わせたものへと見直し、再構築を図る過程にあったなどの事情から当該取引における積極的な営業展開が図れなかったため、商品委託手数料は全体として伸び悩み、前年同期実績と比べて2割強の減収となりました。

（通貨証拠金取引業）

米ドル円のボラティリティの高まりを受け通貨売買は活況だったものの、本年4月に将来的な取引量拡大を目的として行った手数料の引下げが短期的な減収要因となり、当中間期では前年同期実績を下回ることであります。

（証券業）

昨年10月に買収した日産証券株式会社（現日産センチュリー証券株）が連結子会社に含まれ同社収益が連結業績に加算されることから、証券手数料は前年同期比で大幅増収となりました。

なお、当中間純利益につきましては△104百万円となる見込みとなっておりますが、これは第1四半期決算でもお伝えしましたとおり、期初において計上していた繰延税金資産に係る評価性引当額を立てたことから、その分の法人税等調整額が増加したためであります。

(2) 個別業績概要

個別業績において営業収益が前年同期を下回る見込みとなっておりますが、この理由は「(1) 連結業績概要」の（商品先物取引業）及び（通貨証拠金取引業）に記載のとおりであります。

(注) 上記お知らせの内容は、あくまで中間決算集計中の概算・速報値ベースのものであり、後日、変更する可能性がありますので、お含み置きください。

以 上